

- ・ これまで県文化情報センターと（公財）愛知県文化振興事業団がそれぞれ担ってきた舞台芸術公演等の事業機能を（公財）愛知県文化振興事業団へ統合し、新たにプロデューサー等を配置するなど、（公財）愛知県文化振興事業団の組織・体制の強化・再編を行った上で、劇場の運営機能の移管を検討し、質の高い舞台芸術を創造・発信・提供する劇場としての機能強化、専門性の蓄積を図ります。
- ・ こうした取組により、文化芸術団体や他の劇場等との連携のもと、人材育成も視野に入れながら、県芸術劇場の施設機能を活かした愛知発の質の高い舞台芸術の更なる創造・発信、及び質の高い芸術公演の場の提供に努め、全国、世界における音楽、舞台芸術の発信拠点としていきます。

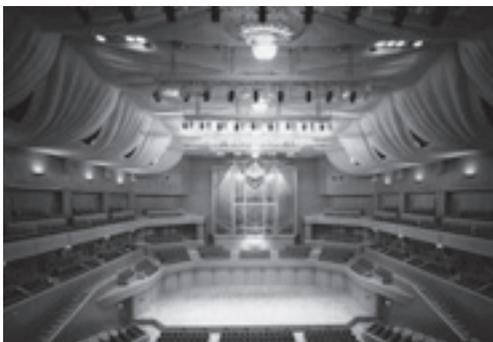
<県芸術劇場の施設概要>

大ホール



5層 2,500席 3面舞台（舞台面積：約 2,000㎡）

コンサートホール



3層 1,800席 オルガン（93ストップ）

小ホール



標準 282席

(県美術館)

- ・ 継続的な調査・研究活動をもとに 20 世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の展開を基軸とし、これに木村定三コレクションを加えて、幅広く魅力的なコレクション展を開催するとともに、館外での公開にも取り組んでいきます。そのために収集方針に基づいた継続的な収集を進めるとともに、コレクションの保存にも注力し、貴重な作品を将来に伝えていきます。

また、美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧展や新しい美術動向の紹介など多彩なテーマの企画展を開催していきます。そして誰もが美術作品を楽しめるよう、幅広い教育普及活動を展開します。さらにギャラリーでは全国的な公募展や団体展、地域の人々に作品発表の場を提供していきます。

< 県美術館の施設概要 >

展示室 8 室 (2,880㎡)



展示室 10 階

ギャラリー 10 室 (3,113㎡)



ギャラリー・ロビー 8 階

< 美術品の収蔵状況 (平成 25 年 1 月 1 日現在) >

開館に向けて収集したもの・開館後収集したもの	1,897 点
愛知県文化会館から引き継いだもの	1,052 点

以上の他、愛知県文化会館から引き継いだ藤井達吉氏寄贈による 1,460 点の美術工芸品等、さらに、開館後寄贈を受けた木村定三氏寄贈による 2,787 点の絵画・彫刻等及び 499 件の考古工芸資料等を所蔵。

(県陶磁美術館)

- ・ 陶磁史上において果たしてきた愛知の重要な役割を踏まえ、歴史的・美術的・産業的に貴重な陶磁資料の保存を図るとともに、陶磁文化の普及・向上に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民に陶芸教室及び陶芸展示室の利用・提供を行っていきます。
- ・ 県立芸術大学や県立大学等と連携強化を図り、所蔵品を活用した講義支援等を行っていきます。

<県陶磁美術館の施設概要>

本館



歴史的・美術的陶磁資料の展示、
貸ギャラリー

南館



やきものに触れて学ぶ場
「やきもの何だーランド」
「あいち子ども考古学研究室」

西館



民俗文化財である陶磁のこま犬の展示

陶芸館



作陶・絵付け、陶芸教室

古窯館 平安・鎌倉時代の古窯5基の保存展示

復元古窯、移築瓦窯 既収集点数 6,068点（平成25年1月1日現在）

⑤ 複合機能やストックの活用

(分野横断的な芸術創造の推進)

- ・ 愛知芸術文化センターの美術展示スペースや大ホール、コンサートホール等の複合機能を活かすため、美術、音楽、舞踊などの分野横断的な新たな芸術創造に取り組みます。
- ・ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」において、現代美術を基軸としつつ、ダンス、演劇、オペラなどの舞台芸術をあわせて展開します。

(芸術と都市機能等との連携)

- ・ 「栄・都心部」に位置する愛知芸術文化センターの立地特性を活かし、オアシス21等との連携を強化しながら、芸術を軸とした多様な交流・創造を持続的に展開するなど、都市機能と一体となった芸術創造に取り組みます。
- ・ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」において、愛知芸術文化センターを始めとした文化施設内だけでなく、まちなかにおいても、作品展示、パフォーマンス等を実施します。

- ・ リニモ（東部丘陵線）沿線は、平成17年の愛知万博会場であった愛・地球博記念公園を中心に、美術館や博物館、大学、史跡公園などが集中した一大文化ゾーンであることから、県陶磁美術館、県立芸術大学、愛・地球博記念公園等を始めとした沿線各施設の相互の近接性や機能、特徴を活かした連携可能性を検討し、県民参加型の広がりをもった文化芸術活動の展開や文化芸術関連イベントの開催等に取り組みます。

(3) 芸術と産業の融合促進

- 芸術の産業化を図っていくため、大学、企業等との連携を促進するとともに、先端的なメディア技術等を活用した新たな取組を検討し、具体化を進めていく必要があります。

<主な取組>

⑥ 大学や企業等との連携促進

(県立芸術大学と企業との連携)

- ・ 県立芸術大学における企業からの受託研究・共同研究の拡大方策を検討します。特に、美術学部ではデザイン・陶磁分野での産業界との連携強化、音楽学部では民間の音楽研究機関との連携強化をめざします。

⑦ メディア技術等を活かした取組の推進

(先駆的な芸術創造)

- ・ 愛知芸術文化センターにおいて、芸術系大学や企業等との連携のもとに、メディア芸術を中心とした芸術創造や、分野を横断した先駆的なメディア芸術の展開を推進します。

(デジタルコンテンツ産業の振興)

- ・ デジタルコンテンツに関わる人材の定着を促進し、地域のニーズ等を踏まえたデジタルコンテンツ産業の集積を図るため、新たなビジネス・モデルの研究や、人材の育成、企業誘致に取り組みます。
- ・ 映画は、文学や演劇、音楽、美術などの幅広い分野の芸術を活かした総合的なコンテンツであり、文化芸術振興を図る面で大きなメリットがあることから、撮影事業の誘致活動を行うフィルムコミッションの設立支援や人材育成に係わる支援の実施に取り組みます。
- ・ 新鮮な発想力と専門的な技術力を競う「愛知デジタルコンテンツコンテスト」を開催することにより、愛知のデジタルコンテンツ産業の将来を担う若い才能の発掘を行います。

2 文化芸術を担い、支える人づくり

(1) 子どもの文化芸術体験の充実

- 市町村や芸術系大学、文化芸術団体、NPO、企業との連携を強化しつつ、より地域の主体性や当事者の創意を活かした子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実を図るとともに、家庭、学校、地域社会等において、子どもの感性や想像力を育む環境づくりに取り組んでいくことが重要です。

<主な取組>

① 子どもの文化芸術体験機会の拡大・充実

(優れた文化芸術との交流機会の提供)

- ・ 子どもたちの豊かな感性や想像力を文化芸術の面から育むため、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」、愛知芸術文化センター及び県陶磁美術館において、優れた文化芸術に出会い、身近に親しむ機会を提供する子ども向けの普及・教育事業を実施します。

<あいちトリエンナーレ 2010 子ども向け普及・教育事業>

◆キッズトリエンナーレ

子どもたちが自由に創作活動を楽しむ場の提供や子ども向けワークショップを実施。
(参加者数 22,328人)

◆学校向け教育プログラム

授業や部活動、遠足等であいちトリエンナーレ 2010 に参加する学校団体向け鑑賞プログラムを実施。(県内外から 124校 9,111人の児童・生徒が来訪)

◆学校へのアーティスト派遣事業

開幕前から開催期間中にかけて、あいちトリエンナーレ 2010 出品作家を含む6組のアーティストを県内7つの学校へ派遣。



【キッズトリエンナーレ】

< 2012 愛知芸術文化センターキッズプログラム >

- ◆コンフェティ劇団「チックタックの秘密のとびら」
カナダ・ケベック州から来日した劇団による、子ども向けのファンタジックなパフォーマンスの実施。
- ◆親子で劇場探検
子どもたちに劇場の楽しさを伝えるため、県芸術劇場のホール内部の探検や、舞台操作や奈落の見学などを実施。
- ◆キッズ・ダンス・ワークショップ
子どもたちが遊びながら自由に体を動かし、ダンスの楽しさを体験する、振付家によるワークショップの実施。

< 県美術館 子ども向け普及・教育事業 >

- ◆子ども向けの鑑賞会
主に夏の長期休暇の時期に、小・中・高校生を対象に、企画展・コレクション展の作品を鑑賞するプログラムを、小中高教員・学生と連携して企画し実施。
- ◆造形プログラム
夏の長期休暇の時期に、幼児を対象に、県美術館のコレクションを鑑賞し、それに関連した造形ワークショップを、大学教員・学生と連携して企画し実施。

< 県陶磁美術館 子ども向け普及・教育事業 >

- ◆子ども向けの鑑賞会
主に夏の長期休暇の時期に、小・中学生を対象に展示室内の作品を学芸員と鑑賞するプログラムを実施。
- ◆野焼き
夏の長期休暇の時期に、小・中学生を対象に土掘、制作、野焼きを実施。作品は、毎年8月末まで館内展示。

(学校教育への支援・協力)

- ・ 小・中・高校、特別支援学校における、伝統や文化芸術についての理解を深める教育や、公立文化施設を活用した文化芸術に関する教育に対する充実を図るため、学校への文化芸術団体等の派遣・斡旋や、学校と文化芸術団体等との協力体制の構築に努める等、積極的に支援・協力を行います。
- ・ 中学生以下の常設展観覧料が無料である県美術館及び県陶磁美術館において、学校行事として常設展を観覧する場合は、高校生の観覧料を無料にするだけでなく、高校生、中学生又は小学生の引率者も無料とし、学校教育への積極的な支援・協力を行います。
- ・ 高校生の文化芸術活動の総合的な発表会を愛知芸術文化センター等において開催し、高校の文化部等に最高の発表の場を提供するとともに、参加者相互の交流を進めます。

② 子どもの感性や想像力を育む環境づくり

(ふるさと遺産のサポート)

- ・ 文化財の保護・継承のために、子どもたちが、地元の民俗芸能保存団体と交流できる環境を整え、自ら旗振り役として活躍できる子どもたちを育てるとともに、あわせて「文化財ナビ愛知」により、県内の国・県指定文化財と国の登録文化財をインターネットで公開し、広く県民に周知することにより、文化財保護の気運を高めます。

(「ものづくり」体験)

- ・ 地域の伝統産業等の技術を体験させ、その伝承者の思いにふれさせることにより、ものづくりの創意工夫を学ばせ、自ら考え行動する力を育み、将来の愛知を担っていく創造性豊かな人材を育成します。

(2) 新進芸術家の育成支援

- 愛知の文化芸術を担う様々な若手芸術家が、愛知芸術文化センター等を拠点として、交流し、活動発表するための場づくりを進めるとともに、国際的に飛躍・発展していくための機会の拡大などに取り組んでいくことが重要です。

<主な取組>

③ 活動発表・交流の場づくり

(「アーツ・チャレンジ」)

- ・ 将来、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」を始め、全国や世界で活躍する芸術家をここ愛知から輩出することをめざし、愛知芸術文化センター等において、新しいアートを創造する斬新な企画を実現・発表する場を提供することにより、若手芸術家の育成を支援していきます。

<アーツ・チャレンジの概要>

若手芸術家から愛知芸術文化センターのパブリックスペースなどの空間を活かした美術作品の企画を募集し、選考された作品の制作・展示を実施。

平成23年度は、応募総数117企画(個人113、団体4)から10企画(個人10)を選考し、愛知芸術文化センターで展示を行った。



【アーツ・チャレンジ 2012 作品展示作業の様子】

(国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」における企画コンペの実施)

- ・ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の現代美術展において、新進芸術家等を対象にした公募による企画展示を実施することにより、新進芸術家等が世界へ羽ばたく機会を提供します。

(芸術活動を活かした交流の場づくり)

- ・ 愛知芸術文化センターやまちなかのオープンスペース等を活用して若手アーティストの活動発表の場を提供するなど、芸術活動を活かした交流の場づくりを進めます。

<愛知芸術文化センターにおける場づくり>

新進芸術家の育成を図るため、愛知芸術文化センターのオープンスペースを活動発表の場として提供し、無料コンサートなどを定期的に開催する。

④ 世界へ躍進していくための環境づくり

(「文化新人賞」)

- ・ 愛知県芸術文化選奨の「文化新人賞」により、文化芸術の各分野の一層の向上と、愛知の文化芸術の発展に、将来にわたって貢献することが期待できる個人・団体を表彰します。

(若手芸術家の発表機会の提供)

- ・ 愛知芸術文化センターや県陶磁美術館において、若手芸術家の育成支援事業を実施することにより、若手芸術家が愛知から全国、世界へ飛躍をしていくための機会を提供します。

<愛知芸術文化センターにおける育成支援事業の概要>

◆ APMoA プロジェクト・アーチ

県美術館において、学芸員が独自の視点から、いま紹介すべき新進芸術家を選定し、作家との協同で作る個展形式の展覧会「アーチ」を継続的に開催する。

◆ 「オリジナル映像作品」の制作

“身体”をテーマにした実験的な映像作品を制作する。

若手作家を登用する機会ともなっている。

<県陶磁美術館における育成支援事業の概要>

◆ 東海現代陶芸展

愛知県、岐阜県及び三重県の若手作家を紹介する企画展で、数年ごとに開催する。

◆ 日中韓現代陶芸展

日本、中国、台湾及び韓国の大学で陶芸を専攻している大学院生などが出展し、交流を深める展覧会で、会場は各国持ち回りで開催する。

(海外留学や国内研修情報の提供)

- ・ 文化庁等が実施する新進芸術家の研修事業の周知や希望者の推薦を行うなど、海外留学や国内研修への参加を支援します。

(3) 鑑賞機会の充実・拡大

- 芸術の担い手と支え手の両方を育てていくという観点から、県民の幅広い層における文化芸術の鑑賞機会の充実・拡大の取組を促進し、鑑賞者層の拡大と鑑賞力の向上を図っていくことが重要です。

<主な取組>

⑤ 多様な活動・交流の促進

(実演家団体等との連携)

- ・ オペラ、コンサート、演劇など幅広い文化芸術分野での、事業の企画制作や公演実施に取り組んでいる（公財）愛知県文化振興事業団などの事業展開を図る上で、人材育成も視野に入れつつ、実演家団体等との連携を一層強化し、県民の優れた文化芸術の鑑賞機会のさらなる充実に努めていきます。

(鑑賞支援プログラム等の充実)

- ・ 県美術館や県陶磁美術館において視覚障がい者が気軽に美術鑑賞できるプログラムの継続実施と一層の充実に努めます。
- ・ 県民の誰もが、気軽に参加、鑑賞できるよう、車椅子席の十分な確保や手話解説の実施、託児室や家族鑑賞室の設営など、公演、展示等で利用者への配慮を推進します。

⑥ 地域間連携による鑑賞機会の拡大

(市町村連携の促進)

- ・ 県内市町村の文化施設担当者等を対象に研修会やワークショップ等を開催し、先進事例の研究や、若手芸術家との交流を通じた事業の共同立案などを支援します。

(連携事業の実施)

- ・ 県立芸術大学などの芸術系大学等が、市町村等と相互に連携し、地域の人々に楽しんでもらえるよう出張コンサート等を開催するなど、様々な文化芸術事業を実施します。

(所蔵作品の有効活用)

- ・ 県美術館や県陶磁美術館に普段なかなか足を運ぶことができない地域の人々に、気軽に県美術館や県陶磁美術館の所蔵作品に親しんでもらう「移動美術館」を開催するとともに、県内の美術館や博物館を始めとした公共施設等において、県美術館や県陶磁美術館の所蔵作品の展示スペースが確保できる施設をサテライト展示場として利用するなど、数多くの所蔵作品の有効活用と県民の身近な鑑賞機会の拡大を図ります。

(4) つなげる人づくり

- 県立芸術大学などの芸術系大学や文化芸術団体、NPO 等と連携したアウトリーチ活動等を充実・拡大するとともに、芸術家や文化芸術団体等と県民とを結びつける人材の育成、文化芸術関係施設スタッフのアートマネジメント能力の向上を図っていく必要があります。

<主な取組>

⑦ アウトリーチ活動の促進

(アウトリーチ活動)

- ・ (公財) 愛知県文化振興事業団や芸術系大学等が、文化施設などに普段なかなか足を運ぶことができない人々に対し、様々な文化芸術事業を実施するなどして、文化芸術の享受層を拡大させ、文化芸術が社会に果たす役割を拡げ、本県の文化芸術をより豊かなものに発展させることをめざします。

(芸術系大学等との連携強化)

- ・ 地元の芸術系大学等との連携を強化し、卒業制作展等を始めとした大学の研究成果の社会還元促進や、県民ニーズに対応した演奏会、講演会、美術展の開催等に取り組んでいきます。

(若手芸術家と市町村の連携促進)

- ・ 市町村文化行政ネットワーク会議等において、若手芸術家と市町村文化施設等の各担当者が出会い、連携を具体化するためのワークショップ等を開催し、各地域でのアウトリーチ活動の拡大を図ります。

⑧ アートマネージャー等の人材育成

(研修等の実施)

- ・ 地元の芸術系大学等と連携し、市町村の文化行政担当者等を対象としたアートマネジメントに関する講座の開催、情報提供等を行います。
- ・ 文化芸術の担い手と支え手をつなぐ視点を持った人材（アートマネージャー）育成のため、実践的な研修を行います。

(文化芸術に関する各種調査研究の支援)

- ・ 愛知芸術文化センター・アートライブラリーにおいて、文化芸術関係の専門図書等（図書、楽譜等の図書資料、CD 等の録音資料、ビデオ等の録画資料）を収集・整理し、芸術資料に関するレファレンスサービスを行うことにより、文化芸術に関する各種の調査研究を支援します。

(インターンシップの受入れ)

- ・ 愛知芸術文化センター、県陶磁美術館等において、芸術・情報系大学等の学生のインターンシップ（就業体験）を積極的に受け入れ、文化芸術に携わる人材養成を支援します。

3 多様な個性・価値を実現する文化芸術の場づくり

(1) 愛知芸術文化センター等における連携・協働

- 愛知芸術文化センターや県陶磁美術館において、NPO・ボランティア等との連携・協働による県民の自主的、主体的な文化芸術活動の場づくりを進めることが必要です。

<主な取組>

① 連携・協働による文化芸術活動の場づくり

(協働を創出する場づくり)

- ・ 教育機関、芸術団体、NPO、企業、市町村等との連携のもとに、愛知芸術文化センターや県陶磁美術館の館内スペースを、芸術家や文化芸術団体等の活動の場として提供します。

(活動発表の場の提供)

- ・ 愛知芸術文化センターや県陶磁美術館において、企画競争方式等で、展示スペース等を新進芸術家等の活動発表の場として提供します。

(ボランティア活動の促進)

- ・ 県美術館や県陶磁美術館において、各施設の「友の会」やNPO等との連携を一層強化しながら、運営ボランティアや解説ボランティア、視覚障がい者ガイドの養成等、支援の取組を推進します。
- ・ 愛知芸術文化センターにおいて、公演サポートを始めとしたボランティアを養成し、その活動を通じ県民の文化芸術への理解と関心を深めます。
- ・ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」において、地元の大学やNPO等との連携を強化しながら、会場運営ボランティアやガイドツアーボランティア等の養成、支援の取組を推進します。

(国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」による支援)

- ・ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」において、愛知芸術文化センターを使用して、地元文化芸術団体等との共催事業を実施することにより、県民の自主的、主体的な文化芸術活動の場づくりを進めます。

(2) 多様な文化が共生する社会づくり

- 様々な国、地域の人々が、互いの文化やライフスタイルを理解し、多様な文化を尊重し、文化芸術活動に取り組むことのできる地域社会づくりを進めていくことが必要です。
- また、国、市町村、民間等との適切な役割分担のもとに、相互の連携を図りつつ、県としては、より広域的、国際的な文化芸術活動への支援を行う必要があります。

<主な取組>

② 多文化共生社会づくり

(多言語での文化情報の提供等)

- ・ 外国人が等しく文化芸術を享受する機会がもてるよう、(公財)愛知県国際交流協会等との連携・協力のもと、文化情報の多言語化、内容の充実に努めるとともに、世界の様々な文化に関する情報をあわせて収集、提供するなど、多言語による文化情報の提供等を行います。

(公財)愛知県国際交流協会による支援

- ・ (公財)愛知県国際交流協会において、県民、NGO・NPO、市町村国際交流協会等による国際交流・国際協力活動に対する支援、国際化の推進役となる人材の育成、外国人県民とともに生きる地域社会づくりへの支援、国際化に関する調査研究・情報提供等を行います。

③ 特色ある文化活動への支援

(文化活動事業費補助金)

- ・ 県内を拠点に活動している文化活動団体、及び地域の文化芸術振興に資する団体による自主的・自発的な文化活動に対し支援を行うため、外部の文化芸術分野の有識者で構成される企画審査会の審査・選考により、先駆性、実験性、国際性、発信性、将来性、県への貢献度が高い事業に対し、重点的に助成を行います。

(各種助成制度の活用)

- ・ 文化庁や(財)地域創造、(財)自治総合センターなどの公的な機関による助成制度や、(公社)企業メセナ協議会の助成認定制度、民間財団等の各種助成金などの情報を幅広く収集・整理し、インターネットを通じてタイムリーに情報提供を行うとともに、助成申請等に関する相談やアドバイスなどを行います。

4 地域文化の発掘・継承・発展の仕組みづくり

(1) 地域の伝統芸能や文化財、食文化、景観等を活かした地域力の強化

- 地域の伝統的やきもの、地芝居、伝統食、歴史的街並み等の文化資源を発掘・再評価し、地域全体の活性化に役立てていくことが重要であり、そのための取組を促進していく必要があります。

<主な取組>

① 文化資源の発掘・再評価

(文化財等の保存・継承)

- ・ 県内に所在する国・県指定文化財を適切に後世に伝えるため、所有者、管理者等が実施する保存修理等事業を支援します。また、文化財のうち重要なものを指定し、とりわけ、無形民俗文化財については、制作した記録映像等の活用を図るなど、その保存・活用を推進します。
- ・ 県庁本庁舎が県民の誇れる財産として歴史的評価を受け、魅力ある新たな地域資源となるように、隣接する名古屋市役所本庁舎と同時に重要文化財の指定を受けるための取組を推進します。
- ・ 「花祭」については、北設楽郡3町村と連携しながら伝承・継続をめざした取組を支援していくとともに、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界無形文化遺産への登録をめざしていきます。
- ・ 地震・津波等による大規模災害から文化財をはじめとした文化資源を守るため、「文化資源の所有者・管理者、地域住民等に対する防災意識の普及・啓発・防災指導」、「文化資源の所有者・管理者、地域住民、NPO・ボランティア、行政間の連携強化」、「専門家の意見を反映した被災時の行動指針の策定」、「未指定の文化遺産の調査」等の実施を進めます。

(ふるさと遺産のサポート)

- ・ 文化財の保護・継承のために、子どもたちが、地元の民俗芸能保存団体と交流できる環境を整え、自ら旗振り役として活躍できる子どもたちを育てるとともに、あわせて「文化財ナビ愛知」により、県内の国・県指定文化財と国の登録文化財をインターネットで公開し、広く県民に周知することにより、文化財保護の気運を高めます。(再掲)

(民俗芸能大会等の開催)

- ・ 国、県及び市町村指定の無形民俗文化財等の保存・伝承を図るとともに、民俗芸能への理解と認識を深めるため、毎年、「愛知県民俗芸能大会」を開催します。

また、「あいちの伝統文化まつり」を開催し、県内各地域の様々な民俗芸能・伝統芸能を紹介することにより、県民の関心を高め、観光振興による地域の活性化や伝統芸能の保存・継承・振興を図ります。

(伝統的な生活文化の普及促進)

- ・ 茶道、華道、書道などの伝統的な生活文化の一層の普及・定着を図るため、広く県民一般を対象として発表・展示を行う事業や、外国の文化活動団体と共同で行う文化交流事業に対する支援等を行います。

(文化資源を活かした活動への支援)

- ・ 地域の文化資源を活かした個性豊かな文化芸術振興を図るため、地域が自主的・主体的に取り組む事業に対して支援を行います。

② 文化資源を活かした地域力の強化

(伝統的工芸産業の振興)

- ・ 地域の歴史と生活文化に根ざした貴重な財産である伝統的工芸品等の産業振興を図るため、工芸品等の普及に努めるとともに、展示会開催などの需要拡大に向けた取組に対する支援等を行います。

(産業陶磁関連の展示)

- ・ 県陶磁美術館・南館において瀬戸焼・常滑焼、三河鬼瓦、尾張七宝などの伝統的やきものやタイル、ファインセラミック、ノベルティなどの現代陶磁器製品など陶磁産業の現況を紹介する常設展示や、陶磁関連情報の提供を行います。

(産業観光施設等の活用)

- ・ 県内の産業をテーマにした施設（産業遺産、工場・工房等）や、歴史的史跡や街並み、自然景観等が数多く残っている県内の街道（東海道、美濃街道等）を観光資源とし、施設間の連携により情報提供体制の充実を図る等、その魅力を広くアピールすることにより観光振興を図ります。

(都市と農山漁村の交流)

- ・ 農山漁村の伝統文化や食、景観などの魅力ある地域資源を紹介するとともに、これらの地域資源を巡るモデルルートを作成・紹介することにより、農山漁村の良さ、農林漁業をPRし、都市と農山漁村の交流を推進します。

(三河の山里活性化)

- ・ 愛知県交流居住センターによる三河山間地域と都市住民との交流イベントを実施し、この地域への産業・文化・伝統等の関心を高めることにより交流・定住人口の増加、地域の活性化を図ります。

(地域文化資源のデジタル化)

- ・ 県内の自然環境や歴史、文化、人物等の地域資源を発掘して、地域住民が地域づくり活動などに利用しやすいようにデジタル・アーカイブ化を行い、県ホームページを通じて情報発信していきます。

(2) 地域文化を支える人々の活動の支援・促進

- 地域文化の担い手である地域住民の主体的な参画促進を図っていくため、NPO・ボランティア活動の支援・促進や、NPO・ボランティア、企業、行政の連携・協力の仕組みづくりに取り組んでいくことが重要です。

< 主な取組 >

③ NPO・ボランティア活動の支援・促進

(文化ボランティア)

- ・ 博物館や美術館などの文化施設における運営ボランティアや解説ボランティアの活動を支援・促進するため、生涯学習分野との連携を図りながら、ボランティア活動に関する相談・紹介、情報の収集・提供、コーディネーターの養成等の仕組みづくりについて検討を行います。

(3) 地域独特の個性的文化の発掘、育成、発信

- 本県には、全国に誇れる優れた民俗芸能や工芸品などの伝統文化やあいちトリエンナーレなどの現代アート、個性豊かな歴史文化や食文化など、多様で魅力的な文化が多数存在しており、これらの地域文化を保存・継承するとともに国内外に向けて発信することにより、愛知の存在感と魅力を一層高めていく必要があります。
- 県内の地域独特で個性的な文化を発掘、育成、発信するための取組を、県が先導的に行うことにより、県内各地域の市町村、NPO、民間団体等による地域文化の発見、保存・継承、地域の魅力創出・活性化に向けた自主的、自立的な取組を促進することが重要です。

<主な取組>

④ 「あいち地域文化創造戦略」の推進

(個性的文化の発掘)

- ・ 地域で継承されてきた伝統文化を始めとする個性的な文化に対する関心を高め、自ら地域を見直す中で、地域独特の魅力ある個性的な文化を発見し、その価値を再評価します。

(個性的文化の育成)

- ・ 地域独特の個性的文化は、地域の財産となるため、次世代に向けた保存・継承を行うとともに、磨きをかけ、その魅力を向上させます。

(個性的文化の発信)

- ・ 地域独特の個性的文化やその活用により引き出された地域の魅力を幅広く情報発信するとともに、他地域との積極的な交流を通じて地域を活性化します。

<あいちの文化探し隊キャンペーン 2012> (個性的文化の発掘)

地域独特の祭りや食文化、あるいはサブカルチャー等、愛知県内に埋もれている個性的な文化を発掘し、その魅力を再発見する。市町村や各種文化団体等の協力を得ながら、県民一人ひとりが「隊員」となって、地域文化発掘の一大県民運動としてキャンペーンを実施。

(事業内容) ○あいちの文化探し隊 PR 隊による調査・取材

PR 隊による県内市町村、祭り、イベント等の取材

○キャンペーン WEB サイトの開設・運営

ブログ、twitter、Facebook による情報収集・発信

○関連イベントの開催

参加型ワークショップ・見学会等の開催